

平成 9年 5月15日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土資料室

(青梅市駒木町 1-684 Tel0428-23-6859)

フクロウにも巣箱

初夏にもなると、夜、外を出歩くのがそんなに億劫ではなくなります。わざわざ出歩くこともありませんが、何かのついでに夜道を歩いた時など、気をつけていると以外にたくさんの鳥が夜も鳴いていることに気がつきます。青梅周辺でも、ホトトギス、カッコウ、ジュウイチ、ヨタカ、トラツグミ、ヤブサメ、オオヨシキリ、ゴイサギ、ササゴイなどの声をよく聞きます。数は少ないのですが、ミゾゴイの声も丘陵部では期待できますし、シギやチドリを中心にした渡り鳥の声が聞こえてくることもあります。時期と場所を選び、安全に気をつけさえすれば、夜のバードウォッチングも十分に可能です。多摩川の河原や長淵や小曾木地区の丘陵沿いの道が狙い目です。

もちろん、夜の鳥の代表、フクロウの仲間も鳴いています。5月～6月の繁殖期に、青梅市内の山林で期待できるフクロウの仲間は、フクロウ、アオバズク、オオコノハズク、コノハズクの4種です。この4種の鳴き声の特徴は次の通りです。

- ・フクロウ：低く「ゴロスケ、ホッホ」と聞こえる声。春先の早い頃から鳴く。
- ・アオバズク：軽い感じで、二声ずつ、「ホッホ、ホッホ」と鳴く。夏鳥なので、声を聞くようになるのは、4月下旬から、5月上旬にかけて。
- ・オオコノハズク：低い声で「ホオウ、ホオウ」と一声ずつ鳴く。
- ・コノハズク：甲高い声で「キョッ、キョッ、キョー」と鳴く。いわゆる、声の仏法僧。

よく混合されるのが、フクロウとアオバズクですが、声をよく聞けば区別は簡単です。

フクロウの仲間は姿を見るのが難しいのですが、アオバズクは割合簡単に姿を見ることが出来ます。アオバズクの主食は昆虫類。そのため、夜、街頭に集まる虫を捕まえに、明るい所へ出てきていることがあります。鳴き声を頼りに探してみると、市街地でも電線やテレビアンテナなど身近なところで見ることができます。これは、ちょっと皮肉な現象ではあるのですが、昼行性のツバメが街頭に集まる虫を捕まえるために、夜も飛び回っているのと似ています。オオコノハズクとコノハズクは最近その数を減らし、鳴き声を聞くのは珍しいくらいになってきました。

オオコノハズクとコノハズクに限らず、フクロウの仲間は数が減っています。エサ場もさることながら、巣を作る樹洞が出来る大木が減っているからです。理想的には、太い木のある鬱蒼とした森が残せばよいのですが、次善の策として、フクロウの仲間用の巣箱を設置することが考えられます。アオバズクなど、人家周辺をエサ場として利用できるのも、営巣場所を人工的に供給することで、その繁殖を助けることが出来るかも知れません。普通、巣箱というとシジュウカラ用の小型のものが多く作られますが、もっといろいろなタイプの巣箱が作られてもよいのではないかと思います。

(文責 櫻岡)